

様式第2号（第9条関係）

会 議 録

会議の名称	令和8年度第1回社会教育委員会常設専門委員会			
開催日時	令和8年7月27日（月） 開会時刻 午前10時 閉会時刻 正午			
開催場所	ふじみ野市役所 本庁舎 2階 A202会議室			
出席した者の 氏名 （委員10人 中10人出席）	役職名	氏名	役職名	氏名
	委員長	石 川 健 一	委 員	進 藤 美 奈 子
	副委員長	山 口 ゆかり	事務局(課長)	木 村 裕 之
	委 員	齊 藤 宏	事務局(副課長)	松 原 秀 洋
	委 員	中 窪 由香理	事務局（地域学び係長）	松 島 弘 泰
	委 員	松 舘 千 枝	事務局(係長)	笠 掛 裕 子
	委 員	原 口 雅 樹	事務局(主事)	星 野 彩 奈
	委 員	長谷川 節 子		
	委 員	齊 藤 智 美		
	委 員	小 澤 真 樹		
会議の議題	(1) 開会 (2) 常設専門委員会 (3) 委員長・副委員長の選出について (4) 議事 ①利用者懇談会等について ②企画提案事業について (5) その他 (6) 閉会			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	教育部 社会教育課			
議事の確定	確定年月日	令和8年8月12日		
	記名押印	役職名 委員長 石 川 健 一 ㊟		

別紙

発言者	発言の要旨
事務局（笠掛）	委員１０名のうち、１０名全員出席。会議成立。
事務局（星野）	資料確認、不足なし。
各委員	自己紹介。
事務局	自己紹介。
事務局（笠掛）	２．常設専門委員会について 資料１に基づき説明。質疑なし。 議事進行。
事務局（笠掛）	３．委員長・副委員長の選出について 立候補者なし。
齊藤（宏）委員	昨年度に引き続き、専門委員会の推進を図れればと思う。 そのために、石川委員を委員長に、山口委員を副委員長に推薦する。
全委員	拍手で承認。
石川委員長・山口副委員長	就任の挨拶。
事務局（笠掛）	進行を委員長に依頼。
石川委員長	議事進行。
事務局（松原副課長）	４ 議事 （１）利用者懇談会等について 本年度から新任の委員がいるため、旧年度までの公民館活動と利用者懇談会の概要の説明を行う。 資料２「令和７年度ふじみ野市社会教育委員会常設専門委員会実施報告」に基づき説明。 資料３「利用者懇談会等について」に基づき説明。 従来、公民館を教育委員会で所管しており、施設に基づいた懇談会が運営されていた。公民館廃止後は、文化施設に切り替わっており、文化施設は教育委員会で所

	管していない。従来の施設に紐づいた利用者懇談会ではなく、新たな利用者懇談会の形を検討していきたい。 なお、今回は利用者懇談会の概要説明にとどめ、二回目以降で施設に紐づいていなくても利用者同士の繋がりを形にするにはどうすればよいか、審議してもらいたい。
石川委員長	専門委員会は、公民館運営審議会の後継組織である。そのため、公民館事業をどう継承していくかを話し合う。 利用者懇談会は、公民館運営における様々な役割を果たしていたため、今後も引き継いだ方がよいということになった。 公民館がなくなった後、利用者は文化施設に移動している。社会教育的な観点で利用者が活動しやすくしていく方法を考えるのが重要。 これからどのような形で活動していくか、たくさん意見を出してもらいたい。 また、事務局の方向性も確認しておきたい。 課長は、今回の会議でどんな話をしてほしいと期待しているのか。
事務局（木村課長）	事務局案も固まっておらず、委員会での議論を踏まえて決めていきたいと考えている。 公民館がなくなった後、公民館利用団体をどうしたかが分かる事例は全国でもほとんどない。議論を聞きながら、一緒に考えていきたい。 これまでは、教育委員会が管理している施設の利用者懇談会を進めていたが、現在、文化施設の運営は指定管理者が行っている。また、施設の所管課は文化・スポーツ振興課である。教育委員会としての限界はあるかもしれないが、どのようなかたちで社会教育を発展させていけるかということを中心に、議論してもらえればと思う。
石川委員長	課長の話のとおり、文化施設の所管は分かれているが、施設の使い勝手だけではなく、ふじみ野市をどういう風にしていくかを中心に考えられるものにしたい。 利用者懇談会を引き継ぐならどんなものになってほしいか、長く公民館で活動していた松舘委員の意見を聞きたい。
松舘委員	利用者懇談会は、公民館利用者みんなで作っていくものだった。利用者懇談会の研修のためにバスを利用することもあり、参加者が自分の活動について話し合うなど、車内はいつも和気あいあいとしていた。 利用者懇談会の後継も、みんなが一緒に成長していこうという気持ちを育てる場所であってほしい。
山口委員	公民館は身近な場所だった。公民館に行けば、誰かと話すことができた。
進藤委員	文化施設の予約システムは、高齢者にとっては対応が難しいものだった。そんななかで公民館が無くなり、衝撃だったが、活動を継続させるために団体間での話し合いを続けてきた。

	公民館を利用していた高齢者にとって、新しくできた文化施設は公民館と勝手が違う部分もある。ただ、それでも活動を楽しむための話し合いをしているようである。 講座講師として三芳町に行く機会があったが、三芳町は公民館の活動が盛んなため、受講者同士の仲が良く、講座を盛り上げるのも非常に楽しかった。公民館活動にはこのような良さがあるのかと感じた。 活動団体が減り、利用者の高齢化が進むなかでも社会教育活動は無くしてはいけないものだと思う。 個人的な話になるが、私が所属する文化協会は、社会教育活動団体を繋げる役割を担っていかなければならないと考えている。教育委員会や文化・スポーツ振興課と連携して活動していかなければならないと考えている。若い人に参加してもらったり、高齢化で衰退している団体を支えたり、という活動を文化協会が担うべきだと思っている。
石川委員長	三芳町は新しい公民館を作っている。ふじみ野市と三芳町の考え方は違っているのだと思う。
進藤委員	「公民館」という名前がなくなっても、他市の公民館活動から良い部分を学ぶ姿勢が大切だと思う。
石川委員長	公民館活動と学生とのかかわりについて、齊藤（智）委員はどう考えているか。
齊藤（智）委員	公民館の活動は長期間の積み重ねが前提になる場合が多く、そのような活動に学生が常に参加することは難しい。ただし、一定期間関わってイベントの手伝いを行う形であれば学生も参加可能と思われる。利用者懇談会の後継などの方向性が明確になれば、学生に参加できる方向を考えるように指示しやすくなるが、現状は難しい。
長谷川委員	これからの活動が文化施設に場所を移すのであれば、通常、利用者懇談会は文化施設に移るのだと思う。ただ、活動の内容見ると、まさに社会教育だと思う。 今のようにお金を払ったら場所が借りられるのは手軽だが、陶芸用の窯などの数が限られている設備は、早いもの勝ちで予約を取られ続けると、混乱が生じる。公民館の頃は、利用者懇談会で利用日を調整して、使いたい団体が順番に設備を利用できるように工夫していた。そういった工夫に社会教育があると感じていた。 また、新しく活動団体が増えた際に、活動場所が不足していたことから、新しい活動団体を既存の団体に割り振る場合があった。既存の団体としてはもともとの仲間だけで活動したい気持ちになりかねないが、公の場所で利用料を免除されているのだから、そんな考え方ではいけない、という意見が自然と生まれる場所が利用者懇談会だった。そういった部分は引き継いでいきたい。むしろ、そういった部分がないと、市民文化祭等の運営も難しくなってくる。 利用者懇談会は、施設と利用者の助け合いという要素が大きい。社会教育的に考えても無くしてはいけない組織だと思う。

石川委員長	いま市民文化祭の話題が出た。公民館が無くなったが、今後、市民文化祭はどのように運営していく方針か。
木村課長	今年度は、ステラ・イースト、ステラ・ウェストを利用して開催する予定。 令和9年度以降は開館予定のステラ・セントラル（中央文化施設）を含む3館を活用して進めていく予定だが、令和10年度以降は未定。
石川委員長	いままでは、公民館3館の利用者は互いに顔が分かっている状態だった。これからは様々な場所で活動を行う人たちが、いかに文化祭を運営できるかが大きな課題だと思う。新しい人が参加しやすいように考える必要がある。
齊藤（宏）委員	社会教育という大前提があると考ええると、活動をしている人たち同士の繋がり、地域の発展・地域の課題解決に向かっていけることが重要。この前提を忘れないようにしていきたい。何かをすることで人と人とのつながりが生まれ、つながりが生まれることで地域を意識してもらうことが、いまの社会教育の大きな流れ。これを行う方法となると難しく感じるが、この視点で考え続けたいと思う。
石川委員長	長年資料館で地域の方や子どもたちの指導にあたっていた経験から、地域団体との繋がりをどのように考えるか、原口委員の意見を聞きたい。
原口委員	資料館は社会教育施設であり、レクリエーションに資する場所として、藍染め教室や土器づくり教室、古文書教室を行ってきた。 各委員の意見を聞いて、学びを楽しめることが重要だと考えた。楽しければ自発性が伴う。ただ、自分だけで学ぶのは限界があり、学びを手助けしてくれる人が必ず必要。そんな場を作る方法が課題となる。 専門委員会で話し合い、今後の方向を決めていけたらと思う。
石川委員	公民館と同じく、資料館にも活動団体がある。今年度資料館も大きく形が変わるので、共有するものがあると思う。
小澤委員	先ほど学生がイベントに参加するという話題が出た。大井旭囃子保存会の手伝いに参加した際、単発の手伝いで参加していた文京学院大学の学生のなかで、お囃子に関心を持った子がいた。最初は単発かもしれないが、結果として継続になる場合もあるので、地域の活動に学生が参加するのは非常に重要。 市民文化祭について、ステラ・ウェストなどは、館として文化イベントを行っている。今後、それとは別に市民文化祭を続けていく調整は必要になると考える。 市内の会館ではサークル活動が行われているが、会館の利用者は、会館に紐づく公民館の利用者団体連絡会に入っていたのか。今後会館の利用者団体を利用者懇談会の後継の一部として考えるのかが不明なため、この場で確認したい。 また、この常設専門委員会を開催する前段階の会議で、学校運営協議会に入っている職員が、各学校で出た課題を集約する団体を作っていくので、公民館について

木村課長	話し合う場合でも、その団体を活用していけるようにという話が出ていたと思う。 ただ、実際には職員が学校運営協議会の会議に出席していない場合もあり、情報共有等の活用ができていない。 地域学校協働活動推進員の活動のなかで、公民館のときは、公民館と利用者の距離が近かったので、児童にサークル活動の見学をさせるのがスムーズだった。ただ、ステラ・ウェストが開館した当初は、施設職員と利用者の距離感が公民館時代と異なっており、十分に見学させられなかった。 社会教育主事が施設にいて、間を取り持ってもらえるようにするなどの仕組み作りが必要だと思う。 また、避難訓練は、ステラ・ウェストとステラ・イーストでは行われているのか。 学校運営協議会については、まだ最初の構想に追いついていない部分がある。今後発展させていきたい。 利用者懇談会の後継では、会館利用者の意見も反映できるようにしたいと考えている。 ステラ・ウェストの避難訓練は休館日に行っており、利用者は対象にしていない。 ステラ・ウェストの開館当初は、市の運営方針のもと、利用者の要望に対応できない部分があったと把握しているが、公民館も開館当初は同じ状態だったと思う。公民館も利用者と接していく中で、つくりあげていった部分があり、文化施設も開館から数年が経ち、同じように成長してきている。 皆さまの議論を聞くと、利用者同士のつながりが重要だと認識できた。いただいた意見をどのような形で反映させていきたいかという事務局の案も、次回以降示していきたい。
中窪委員	会館は、居住地域から公民館までの距離が離れていたり、免許を返納したりして、公民館を利用しない人が主な利用層である。会館利用者は、おそらく公民館につながっていない。 話はずれるかもしれないが、山車の歴史について展示された場所がないな、と感じた。4つの囃子保存会が話し合える場所がない。歴史伝承の困難さや、補助金額の減少があり、伝承活動の継続が難しい。山車の曳き手もいないので、今年は文京学院大学の学生に依頼した。
原口委員	大井のお囃子に関しては、20年ほど前に、「天王様」の特別展を開催しており、歴史が分からないという場合には、当該図録を参照してほしい。お囃子の歴史は展示を行っているが、宣伝が足りていないのだと思う。
小澤委員	展示図録は、副読本に入れたら良いと思う。一昨年までの指導要領では、「おおいまつり」に触れていたため、おおいまつりに関する授業を行うことができた。去年から指導要領が変わり、地域学校協働活動推進員を担当する学校から、無形文化財に触れたいという希望があった。お囃子を見せることになったが、見学だけで終わってしまった。副読本があれば取り組み方も変わったと思う。

進藤委員	若い世代にとっては、実際にお囃子を見ないと、魅力がわかりづらい部分もあると思う。 一度ふじみ野市を離れた人が地元に戻ってきて、同級生が神輿を担いでいる姿を見ると、来年から担ぐ、と言い出したりする。こういう姿を見ると、若い人にコミュニティを大切にしてもらいたいと思う。
石川委員長	いまコミュニティという言葉が出てきた。利用者懇談会の後継を考えるのに、重要だと思う。 各委員の意見が出そろったため、次の議事に進ませていただく。
事務局（松島係長）	4 議事 （2）企画提案事業について 資料4「令和8年度事業計画」に基づき説明。 資料5「公民館事業運営の今後の展開等について～「学びの仕組み」の再構築～（建議）」に基づき説明。
石川委員長	議事の関係で意見等はあるか。
長谷川委員	現行の事業は、歴史も実績もあるので、そのまま続けてもらいたい。さらに新しい人を呼び込むことが大切だと思う。 例えば地域コーディネーターを兼任する小澤委員は、活発にコーディネートを実践していると感じるが、私が参加している地域の学校運営協議会では、地域コーディネーターからの提案や、先生からの提案は今まで一度もない。学校運営協議会の内容は、学校の授業の報告で終わってしまう。学校に直接出向いて、地域学び事業のPRや呼び込みを行うと、反響があると思う。 中学校のさわやか相談員をしていたとき、先生の希望にこたえて、中学生に手話を教えたことがあった。手話を教えた中学生が手話に興味を持ち、地域の手話サークルに入った事例があったので、学校で事業を行うと反響が大きいと考えている。こうした活動を学校運営協議会や地域コーディネーターが呼び込み、広げていけたら良いと思う。
小澤委員	地域協働学校を理解している学校と、そうでない学校がある。ふじみ野市には比較的浸透しているが、まだ浸透していない他の市町から赴任してきた先生に地域協働学校を理解してもらうことが難しい場合がある。地域性もある。 私が担当している学校はPTA組織もあり、学校応援団が整理されているが、これらの組織が果たしている役割を含めた活動を求められている地域コーディネーターもいる。学校ごとに差が大きく、小学校、中学校でも求められることが異なる。子供たちの学習を深めていくことが地域コーディネーターとして主要な仕事であるため、地域学び事業の宣伝までは対応できていない状況である。
進藤委員	学校に歌を教えに行く機会があったが、数年後に、児童が講師として私を覚えていたことがあった。子供はよく覚えているので、やはり大人が学校に入ることが大

	切だと感じた。しかし、やはり地域コーディネーターの負担が大きいと思う。
小澤委員	直接現場の先生と話をしている地域コーディネーターが少なく、入っていくのが難しい場合もある。また、先生に案があっても、上席の許可が下りない場合もある。開かれた学校をうたっているので、学校との関係人口を増やしていきたい。
長谷川委員	市役所内の様々な部署の職員が学校運営協議会に参加している。その力を集結させれば、パワーアップすると思う。
木村課長	社会教育課は地域学校協働活動を推進する立場。引き続き努力を続けていく。
石川委員長	質疑なし。 進行を事務局に戻す。
事務局（笠掛）	5 その他 委員より連絡事項なし。 事務局から次回専門委員会日程候補日の連絡。 閉会の挨拶を山口副委員長に依頼。
山口副委員長	現在の様々な課題が出てきた。まずは人と話してみることが大切だと思う。 主任児童員として三角小のサマースクールに参加した際、教頭先生と話ができる時間があつた。学校が抱えている課題として、児童が使っているタブレットの問題がある。タブレットの使い方が分からない児童は、問題を解くときに、勉強の学習以前にタブレットの使い方の疑問が出てきてしまい、学習にたどり着くまでに時間がかかる。保護者に説明はするが、保護者のタブレットの使い方の知識にも格差があり、子供にしわ寄せがきている。さらに、タブレットの故障の問い合わせなどが先生に入るなどして、業務も圧迫している。また、児童にタブレットを与えて、紙を一斉に無くしてしまったために、児童が実際に文字を書く機会が少なくなっている。これらのことを課題と捉えていた。 こうした問題も、実際に話すことで拾うことができると感じた。 閉会。